

センターだより きゅと!

令和4年度10月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

子どもたちの目標



- 「規則的な生活と元気な体づくり」
- 「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
- 「自分のことは自分でする」
- 「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
- 「知らない所でもなじむことができる」
- 「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
- 「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」

10月の予定

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1日(土) おやすみ | 17日(月) 運営協議会 12:00~ |
| 3日(月) 保護者学習会(栄養) | 22日(土) おやすみ |
| 10日(祝・月) おやすみ | 29日(土) おやすみ |
| 15日(土) おやすみ | 31日(月) 避難訓練 10:20~ |



10月~11月は各クラスで園外保育を予定しております。

クラスより場所や日程などの詳細をお知らせにて配布しますので、ご確認ください。



お知らせ

○実習生がきます クラスに入りましたら、よろしくお願いします。

- | | | |
|------------------|------------|------------|
| 9/22(木)~10/26(水) | 四天王寺大学 | (社会福祉士) 1名 |
| 9/30(金)~10/14(金) | 南海福祉看護専門学校 | (保育士) 1名 |

○保護者学習会のお知らせ

①栄養士によるおはなし ~子どもの偏食対応について~

【日時】10月3日(月) 10:30~11:30

【場所】保育棟ホール



②今年度予定しておりました、歯科衛生士(外部委託)による保護者学習会は、先方の都合により今年度は開催を見合わせる事となりました。楽しみにされていた保護者の皆様には大変申し訳ありませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。

○こどもカーニバル“でんでん” 開催のお知らせ

2年ぶりとなります、こどもカーニバル“でんでん”を、11月3日(祝・木)に開催することが決定いたしました!“でんでん”とは、例年11月に児童発達支援センターと悲田院こども園とで合同で行う、お子さん向けのイベントです。

今年は両園に通園されているお子さんやそのごきょうだいの方を対象に、職員手作りのゲームブースや作って遊ぼうコーナー(工作)等の催し物をご用意しておりますので、是非お越しください! 詳細につきましては後日お知らせを配布しますので、そちらで確認ください。

○生活発表会の日程について



12月に予定しております生活発表会の日程が決定しました。今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策として、生活発表会を2日間に分けて行いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

詳細につきましては、日程が近づきましたらおたよりを配布させていただきますのでそちらをご確認ください。

12月10日(土)	そら・ほし・ゆき
12月17日(土)	つき・うみ・はな・にじ

○写真販売について

各クラスの7月~9月までの写真を「はいチーズ!」にて販売します。
写真販売については、7月にお配りしたお知らせをご確認ください。

販売期間: 10/17(月)~10/31(月)



10月になり、今年度が始まって半年が経ちました。新しい環境に慣れてきたと思ったら、もう来年度の進路のことを考えないといけない等、気が休まらない時期かもしれません。同時に、季節の変わり目ですので、体調に気を付けながら、お子さんと一緒に元気に、楽しく過ごせると良いですね。

冷える夜、寝る前に体温程度に温めた白湯やホットミルクなどを飲み、自律神経を整えてお休みになされると、ストレスの緩和や睡眠の質の向上につながります。機会があればやってみてください。

普段、お子さんと関わる中で、みなさんは「ほっと」するときはありますか？また、お子さんが保護者さんに関わっていて、「ほっと」するときはあるのでしょうか？「なんでも自分でやってほしい」、「できるようになってほしい」と思うと、保護者さんもお子さんもハラハラドキドキしてしまうことが多くなってしまいかもしれません。そういった不安は、目に見えない、無意識の中での安心感をお互いが抱くことで、解消されていきます。今回は、そんな安心感を親子で作っていく方法をお伝えします。

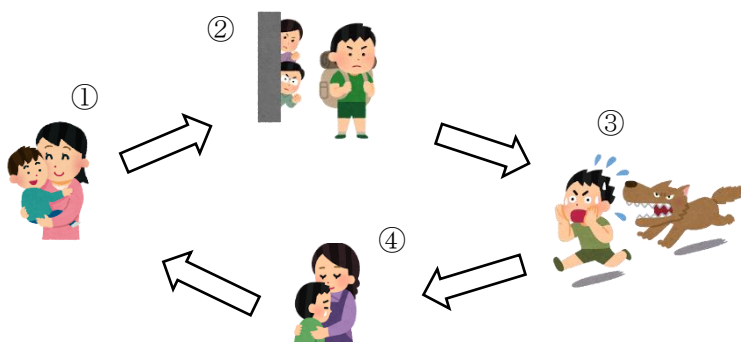
人間は、生まれてすぐに自分だけでは生きていくことができません。保護者をはじめとした大人にくっつく（抱っこやおんぶ）ことで、信頼感や安心感を作っていきます。大きくなると、大人への信頼感と安心感を持って、外（社会）へと冒険に出かけます。冒険はうまくいくばかりではなく、他者から叱られたり、上手くいかないことがあったりして、傷つきながらもおさんは頑張ります。傷ついたおさんに対して、大人は信頼と安心をめいっぱい表現して、おさんを迎え入れ、傷を癒し、次の冒険に備えてもらう役割があります。心理学ではこの大人の役割を「安全基地」と呼びます。安全な基地を拠点として、冒険を行い、傷ついたら戻ってくることを繰り返すことで、社会に出て過ごす力を培っていきます。「甘やかしになって、良くない」と思われるかもしれませんが、むしろこの甘えは後に社会で自律するためには必要なことなのです。

では、安全基地となる大人は、おさんが帰ってくるまで何もしないのかというと、そうではありません。安全「基地」と言われるくらいですから、おさんを見守り、癒せるように準備をしておく必要があります。私は、特にこの「見守り」が大切で、意外と難しいことだと思っています。見守りは、子どもの行動や表現に対して、一歩引いて見続けながら、無関心でもないようにするということです。この見守りを行うことで、おさんは、「傷ついても大丈夫」「お母さん、お父さんがいてくれる」と確信していきます。この確信が安心感になり、もっと社会に出ていこうとするエネルギーになっていきます。

ずっと見守ることは難しい、忙しいという保護者さんには、「10分間、おさんを全面的に受け容れて遊ぶ」ともお勧めです。10分と時間を決め、家事や用事を全て中止し、おさんとだけの時間を設けるだけで、おさんとの関係性はより強く、固くなります。一度試してみるのも良いと思います。

おさんのありのままをしっかりと見つめ、お互いの安心感に繋げてみましょう。

おさんのペースに寄り添い、おさんの気持ちを大切にしてみましょう。その過程で生じる難しいことがあれば、私たちと一緒に考えていきましょう。



- ① いつでも大切な存在だよと伝える
- ② いつでも見守っているよ
冒険に出発
- ③ 冒険で困難に遭遇した
傷ついた
- ④ がんばったねと労い、傷を癒す
これを繰り返していきましょう。